



中日間字幕における異文化要素の翻訳方法 : 映画『花の生涯～梅蘭芳～』の日本語字幕を中心に

庄, 妍

(Citation)

国際文化学, 37:23-47

(Issue Date)

2024-03-18

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCOI)

<https://doi.org/10.24546/0100487643>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100487643>



中日間字幕における異文化要素の翻訳方法

—映画『花の生涯～梅蘭芳～』の日本語字幕を中心に—

A Study of Strategies for Translating Culture-Specific Items in the Japanese Subtitles of Chinese Film “Forever Enthralled”

庄 妍

ZHUANG Yan

Summary

This paper examines the translation strategies of Culture-Specific Items (CSI) in subtitles, making a contrastive study of Japanese and English subtitles in the Chinese film “Forever Enthralled”. I aim to identify from their strategic differences what skopos (= translation purpose) translators set. Previous studies have offered an analytical framework based on two categories: source-oriented strategies and target-oriented strategies. In order to more precisely analyze the strategies, I have introduced two levels (strongness / weakness) into the previous framework: strong source-oriented, weak source-oriented, weak target-oriented and strong target-oriented. The result found that the target-oriented strategies are consistently fundamental to the two subtitles; however, Japanese subtitles are combined with both weak and strong target-oriented strategies while English subtitles almost consist of weak target-oriented strategies. In terms of audiences’ accessibility, the two subtitles seemingly own the common skopos, ‘recreation’. Interestingly, the Japanese subtitles shows ‘biographical’ side, emphasizing the fact-inspired story. On the contrary, English subtitles concentrate on informational ‘symmetry’ to the original Chinese ones. These findings suggest the existence of sub-skopos separately from primary skopos. This means that in the skopos theory only one skopos is thought to exist, but in practice it turns out that skopos is comprised of a multiplicity.

キーワード

中国映画、視聴覚翻訳、字幕翻訳、異文化要素、スコポス理論

I はじめに

デジタル技術とインターネットの発展により、演劇世界の運び手は実在の舞台からスクリーン媒体へ移行してきた。スクリーンで提示されるテキストの遍在は、これまでにない臨場感のある映像世界を人々に届け、映画などの映像作品による国際交流が盛んである。『動画配信ビジネス調査報告書 2023』によると、Netflix、U-NEXT などの有料動画配信サービス利用率は 31.7%となり、8 年連続で増加している。映画の視聴スタイルにも大きな変化が生じた。今後配信サービスの利用率がより高くなり、新規入荷の海外作品がさらに増えていくことが想定される。

映像分野の異文化コミュニケーションを円滑に進めるためには、字幕翻訳において異文化要素をいかに言語と文化の壁を越えて訳すかを解明することが重要である。字幕は、吹き替えより低コストで制作期間が短いという利点があるため日中両国で普及している。配信サービス大手 U-NEXT、中国の動画プラットフォーム「ビリビリ動画」、「テンセントビデオ」などでは、数多くの字幕付きの日中映像作品が鑑賞できる。

字幕などの視聴覚翻訳の歴史は、文芸翻訳や産業翻訳より浅く、まだまだ研究の余地が残る分野だと言われる。1970 年代、ライスは「マルチメディア型テキストタイプ」というテキストタイプをあげたが、それについての理論は展開されなかった (Reiss & Vermeer 1991)。近年、視聴覚翻訳に焦点を当てた国際協会設立により、この分野はますます注目されており、大学院における視聴覚翻訳に関する教育課程の改善も見られ、字幕翻訳をめぐる一連の研究が蓄積されてきた。篠原 (2012, 2013) は、日本映画における異文化要素の翻訳方略について考察した。貢 (2019) は、日中字幕における異文化要素の忠実度と翻訳する際に用いているストラテジーを調査した。林 (2020) は 2010~2019 年の中国国内における視聴覚翻訳に関する文献を分析し、中国の視聴覚翻訳研究の現状と今後の方向性を示唆した。

これまでの研究現状を見れば、日英・中英間の研究は広く展開されているものの、日中両言語間の字幕翻訳に関する研究は十分に行われていないといえる (Alfaify & Ramos Pinto 2022; 貢 2019)。日中両国がともに漢字圏におかれていることから、日中間字幕を研究することでアルファベットを使う言語間の翻訳で見られない、字幕翻訳における新たな発見をもたらすのではないだろうか。

異文化要素の翻訳方法について、起点志向と目標志向の 2 つの方向性があることが明らかにされてきた (Alfaify & Ramos Pinto 2022; Díaz Cintas & Remael 2007; Franco Aixelá 1996; Pedersen 2011)。翻訳者の意図が翻訳方法の選択にどのような影響を与えているかを検討するため、翻訳理論を利用した論理的な説明がさらに必要である。

そこで本研究の目的は、中国伝記映画『花の生涯～梅蘭芳～』の日本語字幕に焦点を当て、スコポス理論の視点から字幕における異文化要素の翻訳方法を考察することとする。具体的に、対象作品の日本語字幕の翻訳実態を調査し、異文化要素の日本語字幕はどのような翻訳方法を採用しているか、翻訳のスコポスは何かを明らかにする。

II 先行研究

2.1 理論的枠組み：スコポス理論

1970年代、翻訳理論に関する研究は原文志向から訳文志向へ、つまり等価志向から機能志向へと変化した。フェアメーアは、あらゆる翻訳現象を説明できる理論を目指して、スコポス理論を考案した。「スコポス」はギリシア語で「目的」という意味であり、「翻訳の目的」を表す専門語として用いられる。フェアメーアは翻訳行為について以下のように考えた。翻訳するということは、目標文化社会の環境にある TT¹⁾の受け手と TT の目的のために、TT 受容の状況下でテキストを産出することである (Baker & Saldanha, 2009 藤濤監訳・伊原・田辺訳 2013:90)。つまり翻訳で求められるのは、ST の再現でも原著者の意図の再現でも読者への効果の再現でもなく、TT 読者との新たなコミュニケーションを成功させることである (藤濤 2007:26)。翻訳行為で最も重要なことはスコポス、つまり翻訳の目的であると考えられる。

スコポス理論では、テキストはある特定の状況下で受容者に対して与えられる情報提供であると見なされる。翻訳の目的が TT 作成に大きな影響を与えるが、何のために、誰に対して、どのように、どの媒体で、といった翻訳行為を取り巻くコミュニケーション状況が翻訳行為に関わるのである (藤濤 2007:115)。翻訳を決めるのは翻訳の専門家である翻訳者であり、翻訳者の主体的な役割と責任が注目されることになる (藤濤 2007:26)。

スコポス理論の特徴は、翻訳行為を単なる言語コードの変換として捉えるのではなく、文化差や媒体などのコミュニケーション状況の差なども考慮に入れる点である。そのため、視聴覚翻訳を説明するときには有効であると考えられる。

2.2 視聴覚翻訳と字幕

視聴覚翻訳 (Audiovisual Translation) は、映像などのマルチモード型でマルチメディア型のテキストを他の言語文化へ移すケースを扱う (Baker & Saldanha, 2009 藤濤監訳・伊原・田辺訳 2013:18)。視聴覚翻訳の歴史は無声映画の時代に遡ることができるが、1920年代後半にはじまるトーキーの出現につれて音声編集技術と映画フィルムの処理技術が発展したことで、視聴覚翻訳の主流形態である吹き替えと字幕が生まれた。1950年後半から1960年代前半にかけてこの分野に関する研究は停滞していたが、デジタル革命のおかげでオーディオ・ビジュアル産業が急成長し、20世紀末にブームになった (Díaz Cintas 2009:1)。

字幕は短い文字テキストを作成し、フィルムに焼き付けられる翻訳形態であり、吹き替えより安くて早く製作できる。Delabastitaは記述的翻訳研究の立場から、映画を構成する記号チャンネルの多様性について論じた。字幕は、視覚・聴覚チャンネルを言語的・非言語的側面と組み合わせ、言語聴覚 (セリフなど)、言語視覚 (字幕、看板、手紙など)、非言語聴覚 (音楽、効果音など)、非言語視覚 (映像、画像、身振りなど) という4つの要素が複合的に使われている (Delabastita 1989:198-199; 貢 2019:12)。特に言語間字幕は、起点言語から目標言語に移すと同時に音声記号から文字記号へと切り替えるのである。

オリジナルの音声が残ることで、映像作品の鑑賞や異文化への関心が高まり、また作品

の魅力もさらに増すことになる。その一方で、字幕翻訳は次のような様々な制約を受ける。まず空間的制限は、字幕がスクリーン上の余白の不足という制約を受けることである。時間的制限は、一般的に読むスピードより話すスピードのほうが速いため、字幕の持続時間が元の音声セリフが話される時間によって制限されることである。映像との整合性は、字幕が映像及び音楽・効果音と合わせることを指す。それらの制約のゆえに、字幕は分量と意味情報の縮小や、文体の平板化といった文体情報の縮小が不可避である (Baker & Saldanha, 2009 藤濤監訳・伊原・田辺訳 2013:24; 藤濤 2007:121)。

2.3 異文化要素の領域分類と翻訳方法

「字幕は異文化の運び手」と言われるように、映画は異文化に触れる絶好のチャンスを見聴者に与え、文化間の相互理解を深めてくれる (Díaz Cintas & Remael 2007; Leppihalme 1997; Pedersen 2011; 張 2004)。しかし、様々な制約を受けている字幕翻訳の場合、異文化要素を詳しく解説することができないため、多くの見聴者が一読して理解できるような平易さと簡潔さが求められる (篠原 2013; 張 2021)。異文化要素の翻訳は、翻訳上の課題とされていて関心が寄せられている。本節では、異文化要素の領域分類と翻訳方法についての先行研究を概観する。

まずは、異文化要素の領域分類に関する研究である。研究者によって用語と定義が異なっているが、Franco Aixelá (1996)、Díaz Cintas & Remael (2007)、Pedersen (2011)、頁 (2019) などがあげられる。紙面の関係で、ここでは2つの代表的な研究を紹介する。

Franco Aixelá (1996) は、文化固有項目²⁾ (Culture-specific Items/CSI) を提案し、「目標テキスト読者の文化システムには対応する項目が存在しないか、あるいは文脈での意味が異なることから起点テキストにおける機能や意味を目標テキストに移す際に翻訳が困難になる項目」であると定義している。文化固有項目を「固有名詞 (Proper Nouns)」³⁾と「一般的な表現 (Common Expressions)」の2種類に分けている。

Pedersen (2011) は、文化に関連する表現を言語外文化的指示⁴⁾ (Extralinguistic Cultural Reference/ECR) と呼び、「言語外の実体や過程を指示するあらゆる文化的言語表現による指示」⁵⁾であると述べている。Pedersen (2011) は、Scandinavian Subtitles Corpus から収集した言語外文化的指示に基づいて「度量衡」、「固有名詞」、「職業上の役職名」、「料理および酒類」、「文学」、「政府」、「娯楽」、「教育」、「スポーツ」、「通貨」、「技工作」、「その他」の12領域を提案した。

次に、字幕における異文化要素の翻訳方法について述べる。Franco Aixelá (1996) はアメリカ小説家ダシール・ハメットの小説『マルタの鷹 (The Maltese Falcon)』⁶⁾の3つのスペイン語訳を考察し、TTが起点言語文化寄りの異化的翻訳であるか、目標言語文化寄りの同化的翻訳であるかという翻訳における一般的な傾向を素早く見極めるため、以下11種類の翻訳方法を提案した。①Repetition、②Orthographic adaptation、③Linguistic/non-cultural translation、④Extratextual gloss、⑤Intratextual gloss、⑥Synonymy、⑦ Limited universalization、⑧ Absolute universalization、⑨ Naturalization、⑩ Deletion、⑪ Autonomous creation⁷⁾である。①～⑤は「保留」、⑥～⑪は「置換」と分けている。

Franco Aixelá (1996) の翻訳方法は、同化の度合いによって並んでいることで異化と同化が二項対立ではなく、度合いによって異化的翻訳も同化的翻訳も階層的に存在することを示している (張 2004)。Franco Aixelá のモデルを用いて異化的・同化的といった翻訳方法の傾向性を観察することで、ある時期の翻訳規範と社会文化的制約に対する翻訳者の反応や、その時期の社会的・文化的状況が翻訳行為に与える影響を明らかにすることができる (Fahim et al. 2013)。

Pedersen (2011) は 7 種類の翻訳方法を提案した。保持、詳述、直接訳の 3 方法を起点志向の翻訳方法に、一般化、置換、省略の 3 方法を目標志向の翻訳方法に分類する。公的等価はどちらにも属しない独立した翻訳方法である。

篠原 (2013) は、Pedersen (2011) の分類に基づいて日本映画『おくりびと』⁸⁾における異文化要素の英語字幕を考察した。同作品では異文化要素の翻訳志向は、起点志向と目標志向のほぼ中間にあると述べた。

貢 (2019) は Pedersen (2011) の分類を援用し、中国の映画・ドラマの日本語字幕を対象に異文化要素の翻訳ストラテジーを考察した。物語と強く関わる異文化要素は保持、出現回数が少ない異文化要素は省略と一般化の方法が多いと述べている。

張 (2021) は、Pedersen (2011) に基づき、日本映画の中国語字幕を対象にして、異文化要素の翻訳ストラテジーを考察し、翻訳のスコパスを特定した。中国語字幕に訳される際に、起点志向の保持、詳述、直接訳、目標志向の一般化が多用されると述べた。人名、料理および酒類、場所・地名、単位などの物語の中心となる言葉の忠実度が高いと報告した。その結果を踏まえて、視聴者に異文化とストーリーを同時に楽しませようというスコパスであると論じた。

貢 (2022) は Pedersen が提案した ECR の概念を用いて、中国武侠映画『グランド・マスター』⁹⁾の日本語字幕を対象に、中国武術用語に関する翻訳ストラテジーを考察した。日本語字幕では起点志向の保持と直接訳が多用され、およそ 6 割の武術用語についてその文化的特徴が残されていたと報告した。

Pedersen (2011) の分類は詳しく、異文化要素を抽出するには多様かつ具体的な視点からテキストを観察できるという利点があり (篠原 2013)、それに基づく先行研究がよく見られる。しかし、慣用語、メタ言語などの領域が網羅できていないことや、領域分類の重複などの問題点が指摘されている (貢 2019)。本研究では Franco Aixelá (1996) の分類に基づいて考察する。

III 研究の枠組み

3.1 対象作品と使用するデータ

本研究は、中国映画『花の生涯～梅蘭芳～』の字幕を分析対象とする。『花の生涯～梅蘭芳～』(原題: 梅蘭芳、英語題: *Forever Enthralled*) は、京劇女形のスター・梅蘭芳の生涯を描いた伝記映画である。2008 年 12 月に中国で上映され、2009 年中国映画界の最高賞である金鶏奨を受賞した。第 59 回ベルリン国際映画祭に出品し、2009 年 3 月に日本でも上映された。本研究に使用されるのは、中国の配信サービス Tencent Video (中国語

と英語字幕付き)と日本の配信サービス HULU (日本語字幕)によって提供されるバージョンの字幕である。英語字幕は Linda Jaivin、日本語字幕は有限会社マリンプオストの竹内秀樹と南成木が担当した。

これまでの研究対象とされた中国作品は、時代劇や神話といったフィクションがよく見られるが、近現代の中国を舞台にした映像作品は鮮少である。本作品のセリフは現代中国語の話し言葉であり、日常生活で多用される慣用語やことわざが多い。また、中国語バージョンは中国語字幕と英語字幕両方が付いているため、中国語と日本語、英語の 3 言語での比較分析ができる。さらに、中国伝統文化の精華である京劇が多く盛り込まれることで、それに関する異文化要素もよく見られる。以上のことから、本研究の分析対象として選定した。

データ収集の手順は以下の通りである。まず、映画『花の生涯～梅蘭芳～』(0:00:00～2:24:40)のセリフを文字でトランスクリプトする。中国語セリフ 1622 件(以下:ST)、その日本語字幕(以下:TT-日)1643 件、英語字幕(以下:TT-英)1622 件を、それぞれ TXT ファイルとして保存する¹⁰⁾。次に、中国伝媒大学によって開発されたコーパス検索ツール CUC_ParaConc を利用して 1 対多の対訳コーパスを作った。セリフにおける異文化要素を抽出し、その中国語表現をキーワードとしてコーパスで検索し、出現頻度と各出現回に対応する TT-日と TT-英が表示できる。

3.2 異文化要素の分析枠組み

異文化要素の翻訳方法について検討する前に、本研究で用いる「翻訳方法」の定義を説明する必要がある。翻訳のプロセスで生じた問題を処理するための方法は「ストラテジー」あるいは「方略」と呼ばれる。「ストラテジー」という用語は、「最適の方法で、ある特定の目標に到達するために用いられる一連の目的論的行動を意味する」(Baker & Saldanha, 2009 藤濤監訳・伊原・田辺訳 2013:210)。しかし、翻訳のあり方が多様であり、翻訳とは「複雑な状況判断に基づく決定行為である」(藤濤 2007:10)。スコポス理論によれば、翻訳行為はある特定の状況における受容者に対する情報提供である。つまり唯一正しい翻訳は存在せず、翻訳の多様な可能性の中から、翻訳者が具体的な状況に応じて何が最適かを判断するのである。このように、状況によって異なる「情報提供の仕方」が存在し、実際の TT はその選択肢の 1 つであると考えられる。「情報提供」の考え方を援用し、本研究では「翻訳方法」を「TT 受容者への情報提供の仕方」と定義する。

本研究では、Franco Aixelá (1996) が提案した異文化要素の領域分類と翻訳方法に倣って調査を進めていく。まず、異文化要素の領域分類を再検討する。Franco Aixelá (1996) は具体的な領域分類を提案していないため、対象作品から抽出する異文化要素に基づいて、領域分類をさらに細分化する。筆者が映画『花の生涯～梅蘭芳～』で現れた異文化要素を抽出して整理し、以下の 8 種類の領域を提案する。

固有名詞：人名、地名・場所名

一般的な表現：呼称表現、京劇用語、慣用語・ことわざ、四字熟語、

メタ言語表現、社会文化

Franco Aixelá (1996) の翻訳方法は英西間の翻訳に適しているが、日中間の字幕翻訳

に適用するために日本語と中国語の表記体系などの特徴を考慮して、いくつかのところを調整する必要がある。まずは **Repetition** (複写) の定義についてである。日本語の漢字と中国語の簡体字が完全に一致しない場合でも、**ST** の簡体字と対応している日本語漢字に置き換えることも「複写」とする。次に、対象作品では人名などの日本語訳にルビをふること以外、画面の他のところで注釈を加えて説明することが観察されていないため、**Extratextual gloss** を「ルビ」とする。さらに、張 (2004) は **Synonymy** が独立した1項目としてあげられることは妥当性を欠くと指摘したことにしたがい、この項目を削除する。**TT** では異文化要素が含まれるセリフを丸ごと削除する事例が観察され、「訳されない」の方法とする。

翻訳方法が起点志向と目標志向の2極の間に段階的に分布していることを明らかにするため、**Franco Aixelá (1996)** の起点志向と目標志向の2グループに基づいて、**ST** から離れる度合いと翻訳者の介入の程度によって、さらにサブカテゴリーを作った。具体的に、強い起点志向、弱い起点志向、弱い目標志向、強い目標志向の4段階である。調整後の翻訳方法は以下のとおりである。

強い起点志向：**ST** の何らかの側面(綴り、発音、意味など)を**TT** で再現することを目指している翻訳方法である。

- ①複写：**ST** の綴りそのまま、あるいは中国語の簡体字と対応している日本語の漢字を導入する。
- ②音訳：表記を調整して**ST** の音を**TL** に適応させる。**TT**-日の場合はカタカナで、**TT**-英の場合はアルファベットで**ST** の発音を再現することを指す。
- ③逐語訳・借用翻訳：語の意味を訳す(固有名詞の場合は借用翻訳とする)。

弱い起点志向：**ST** の文化要素を目標文化に持ち込み、翻訳者が**ST** の発音や解釈を補う翻訳方法である。

- ④ルビ：ルビをつける¹¹⁾。
- ⑤補足：本文の中で補足説明を加える。

弱い目標志向：翻訳者が目標文化に**ST** の文化的特徴を持ち込むことが困難だと判断した場合、起点文化、または起点文化や目標文化以外の中立的なもので目標視聴者が受容されやすい表現に置き換える翻訳方法である。

- ⑥限定一般化：**SL** の文化内にあるより知られた語で代用する。
- ⑦絶対一般化：**SL** の文化内にあるより知られた語が見つからない場合や、異質的な意味合いを取り除くと判断された場合、**SL** にも**TL** にも属さない中立的な表現で代用する。固有名詞の場合、普通名詞で代用する方法である。

強い目標志向：翻訳者が目標文化に**ST** の文化的特徴を持ち込むことが困難だと判断した場合、**ST** の文化的特徴を放棄し、目標文化のもので目標視聴者がなじみやすい表現に置き換える翻訳方法である。また、**ST** のセリフにおける異文化要素を削除する場合は「削除」、異文化要素を含むセリフを丸ごと削除する場合は「訳されない」とする。

- ⑧帰化：**TL** 文化内の要素に置き換える。固有名詞の場合、**TL** の別の固有名詞で代用する方法とする。
- ⑨削除：**ST** における文化的要素を削除する。

- ⑩創造。ST にない文化的要素を創造する。
- ⑪訳されない：異文化要素が含まれるセリフを丸ごと削除する。

3.3 研究方法

本研究は字幕の翻訳実態に着目し、採用された異文化要素の翻訳方法を同定し、TT・日と TT・英を比較しながら、量的かつ質的分析を行う。

量的調査については、まず領域分類によって異文化要素の延べ語数と異なり語数を数える。また、各出現回で採用された翻訳方法を明確にする。さらに、強い起点志向、弱い起点志向、弱い目標志向、強い目標志向の 4 段階で翻訳方法の分布を明らかにする。

質的調査については、3.2 で提案した翻訳方法の分類を用いて、領域別で異文化要素の翻訳実態を明らかにする。具体例をあげながら TT・英と TT・日と比較して、その共通点と相違点を分析・考察していく。

IV 結果：異文化要素の翻訳方法

4.1 量的分析

本節では、量的分析により各領域における異文化要素の件数や、採用された翻訳方法を調べ、対象作品が採用する翻訳方法が起点志向と目標志向の間でどのように分布しているかを見ていく。

対象作品から延べ 569 件、異なり 163 件の異文化要素が抽出できた。表 1 は、各領域における異文化要素の件数を示している。延べ件数から見れば、異文化要素は人名 (211 件)、呼称表現 (183 件)、京劇用語 (76 件) などの領域に集中している。異なり件数から見れば、京劇用語 (37 件)、呼称表現 (36 件)、慣用語・ことわざ (21 件) などの領域が多い。

表 1 各領域における異文化要素の件数

		延べ件数	異なり件数
固有名詞	人名	211	18
	地名・場所名	21	11
一般的な表現	呼称表現	183	36
	京劇用語	76	37
	慣用語・ことわざ	25	21
	四字熟語	22	18
	メタ言語表現	2	2
	社会文化	29	20
計		569	163

まず対象作品に現れた異文化要素全体で採用された翻訳方法を説明する。

図1は、対象作品における計569件の異文化要素で採用された翻訳方法の回数を示している。最も採用されやすい翻訳方法については、TT-日で複写(188件)、絶対一般化(180件)、削除(152件)があげられる。TT-英では絶対一般化(269件)が最も多く、次いで音訳(213件)が多くなっている。

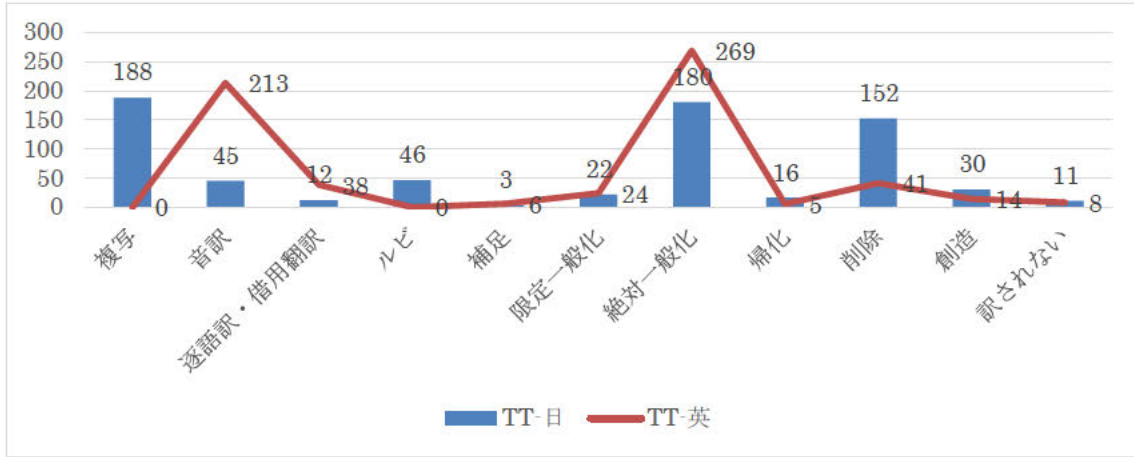


図1 異文化要素における各翻訳方法の採用回数

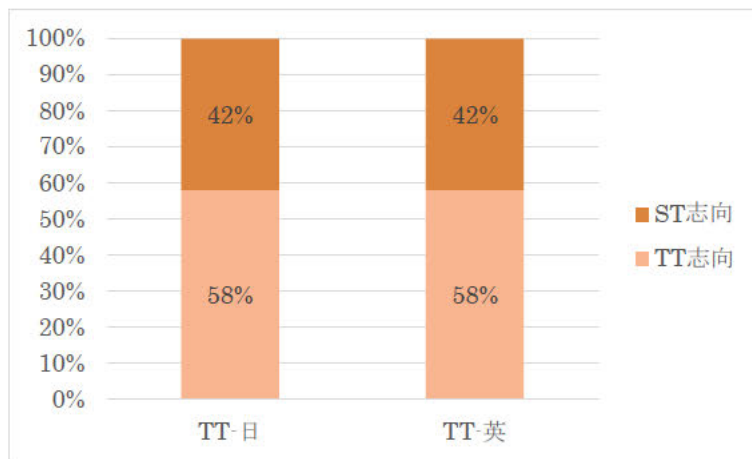


図2 異文化要素の翻訳方法の分布(2段階)

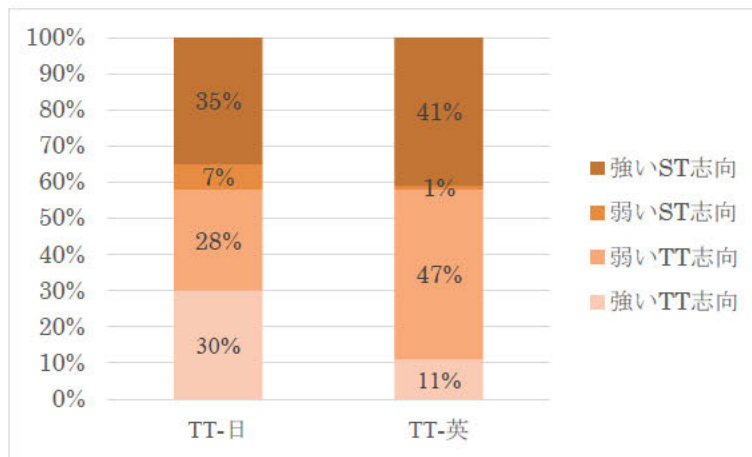


図3 異文化要素の翻訳方法の分布(4段階)

異文化要素の翻訳方法の分布を述べる。先行研究では翻訳方法を起点志向と目標志向の2グループに分けている。本研究の場合、「複写」、「音訳」、「逐語訳・借用翻訳」、「ルビ」、「補足」は起点志向、「限定一般化」、「絶対一般化」、「帰化」、「削除」、「創造」、「訳されない」は目標志向である。先行研究と同じように2グループに分ければ、図2から分かるようにTT-日とTT-英どちらも、起点志向は42%、目標志向は58%となっている。つまり、TT-日とTT-英の差が見えにくいのである。

本研究では、先行研究の起点志向と目標志向の2グループに基づいて、さらにサブカテゴリーを作って、強い起点志向、弱い起点志向、弱い目標志向、強い目標志向の4段階を検討していくこととした。その結果は、図3に示した通りである。図3では、色が薄いほどTTの異質性が弱いことを表している。

特に注目したいのは目標志向のほうである。TT-日とTT-英は、同じように目標志向の翻訳方法がおよそ6割で採用されやすい。TT-日では、目標志向の翻訳方法においては、弱い目標志向と強い目標志向はそれぞれ3割ぐらゐを占めていることで、弱い目標志向と強い目標志向が同じくらいの割合であると言えるだろう。それに対して、TT-英では弱い目標志向は全体の5割ぐらゐ、強い目標志向は1割ぐらゐ占めているため、とくに異質的な意味合いを取り除く「絶対一般化」などの翻訳方法を採用しやすい傾向が見られる。以上のことから、異文化要素の翻訳方法を4段階で検討することで、TT-日とTT-英の差が見られるようになった。

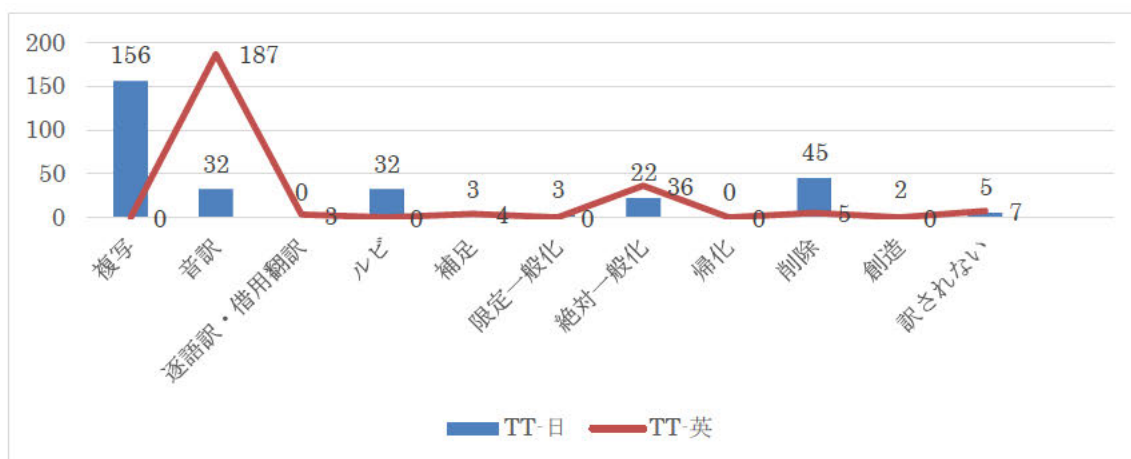


図4 固有名詞の翻訳方法



図5 一般的な表現の翻訳方法

異文化要素の翻訳方法を、固有名詞と一般的な表現の2種類に分けて考察する。

図4と図5は、固有名詞と一般的な表現における翻訳方法の採用回数を示す。固有名詞の場合、TT-日では「複写」、TT-英では「音訳」が最も採用されやすい翻訳方法である。一般的な表現の場合、TT-日とTT-英とも「絶対一般化」が最も多い。また、「削除」の件数について、TT-英では36件、TT-日では107件と、大きな差が見られた。

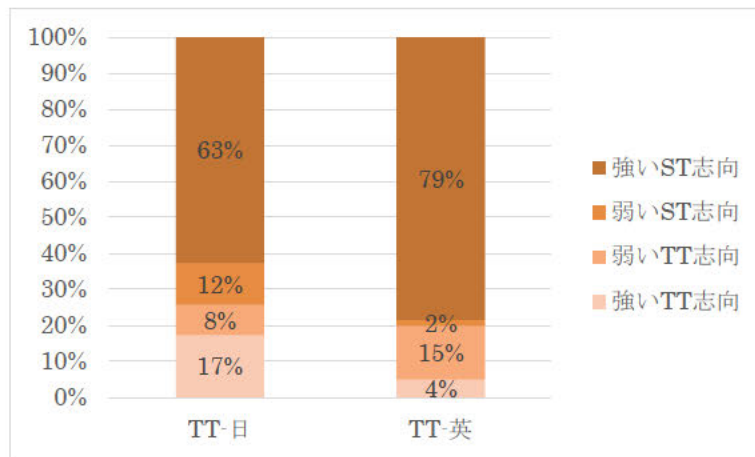


図6 固有名詞の翻訳方法の分布

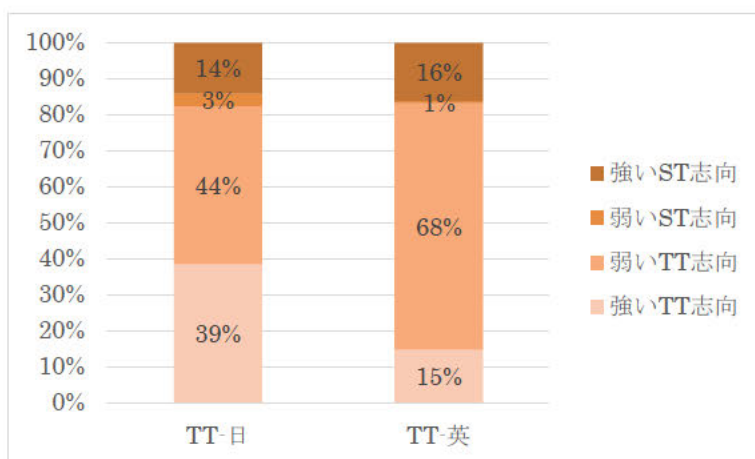


図7 一般的な表現の翻訳方法の分布

図6と図7は、固有名詞と一般的な表現における翻訳方法の分布を示す。

まず、固有名詞の翻訳について述べる。TT-日、TT-英ともに起点志向が強く、起点志向の割合はTT-日で75%、TT-英で81%となっている。特にTT-英では強い起点志向が79%を占めており、STの異質さを積極的に伝えるように訳されていると考える。目標志向の翻訳について説明する。TT-日では弱い目標志向は8%、強い目標志向は17%となっていることで、強い目標志向の翻訳がよく使用されていることが分かった。それに対して、TT-英では弱い目標志向は15%、強い目標志向は4%となっている。このことから、目標志向の翻訳ではTT-日とTT-英はそれぞれ強い目標志向と弱い目標志向の翻訳方法が採用されやすいことを示している。

一般的な表現の翻訳について、TT-日、TT-英ともに目標志向が強く、目標志向の割合はTT-日、TT-英両方ともに83%となっている。目標志向の内訳を見れば、TT-日の場合、弱い目標志向と強い目標志向はそれぞれ44%と39%となっている。TT-英の場合、弱い目標志向と強い目標志向はそれぞれ68%と15%となり、弱い目標志向が圧倒的に多いことを示している。

4.2 質的分析

前節で述べたように、固有名詞と一般的な表現の翻訳は、それぞれ起点志向寄りと目標志向寄りの翻訳方法が採用される傾向が分かった。では、TT-日とTT-英において具体的にどのように訳されているだろうか。4.2では、実例分析により固有名詞と一般的な表現の翻訳実態を考察していく。4.2.1では固有名詞の異文化要素を、4.2.2では一般的な表現の異文化要素を分析していく。

4.2.1 固有名詞

人名

(1) ST 梅兰芳不来,退票 (梅蘭芳が来ないなら、チケットを払い戻せ)

TT-日 メイ・ランファン
梅 蘭 芳 が出ないなら金を返せ!

TT-英 We want Mei Lanfang.

例 1 は主人公の名前がはじめて現れたところである。TT-日では ST の漢字を保留する一方、ルビをつけてその漢字の中国語発音を再現しているため、複写、ルビ、音訳の方法を採用している。TT-英では英語のアルファベットで発音を表し、音訳の翻訳方法を使用している。人名の反復について、TT-日では 3 回目までルビをつけるが、その後の出現回はルビをつけなくなり、ST の漢字だけをなぞる複写の方法を採用している。3 回目ほどルビをつけて発音を提示すると、視聴者の中である程度印象が残ると考えられるだろう。すべての出現回でルビをつけるとかえって視聴者の認知負荷がかかると考えられる。

(2) ST 晚华等人呐 (晚华 誰かを捜しているのか)

TT-日 誰か捜してるのか?

TT-英 Wanhua, looking for someone?



図 8

例 2 は、京劇が開演する前に、幕の隙間から観客席を覗いて知り合いを探していた主人公に対する師匠の発話である。TT-日では「誰か捜してるのか?」と訳され、聞き手に呼びかける「晚华 (ワンホア)」が削除された。図 8 が示しているように、話し手の師匠と聞き手の主人公がともに画面に映っているため、字幕に聞き手の名前を提示しなくても、映像を見れば誰に対して話しているかが分かるだろう。Delabastita (1989) によれば、映画の翻訳では言語聴覚、非言語聴覚、言語視覚、非言語視覚の 4 つの要素が複合的に使われると述べたが、例 2 は映像によって字幕を補完する一例と言えるだろう。

TT-日に対して、TT-英では音訳が採用されている。その理由は、オリジナル版では中国語字幕と英語字幕の 2 行からなっていることから来ていると考えられる。TT-英は、中国語字幕と同時に表示されているため、ST の要素を削除しにくいと考えられる。バイリンガル字幕の場合、映像などの非言語視覚情報より、TT-英が中国語字幕から制限を受けていると考えられる。

(3) ST 梅兰芳已到 (梅蘭芳が到着した)

TT-日 “梅蘭芳が到着”

TT-英 /



図 9

例 2 は視覚情報で字幕を補完する具体例であったが、字幕で言語視覚の情報を説明する具体例として例 3 の看板の翻訳があげられる。図 9 が示しているように、TT-日では「梅蘭芳が到着」と看板の情報を訳している。人名「梅兰芳」は中国簡体字に対応する日本語の漢字「梅蘭芳」と訳され、複写の翻訳方法に分類できるだろう。それに対して、オリジナル版では看板で書かれた文字が中国語字幕に表示されていないので、対応している TT-英にも字幕は表示されていなかった。

地名・場所名

- (4) ST 北堂子胡同七号 对了 (北堂子町 7 号だ 間違いない)
 TT-日 胡同 7 号か
 TT-英 7 Beitang Zi Hutong, right.

- (5) ST 北堂子胡同柒号 (北堂子町 7 号だ)
 TT-日 “北堂子 胡同 7 号”
 TT-英 /



図 10

例4と例5は場所名の翻訳である。中国語では「胡同(フートン)」は細い路地を指し、「～胡同」は「～町」を意味する。例4の「北堂子胡同七号」は、北堂子町7号を意味する。TT-英では「胡同」の発音をなぞる音訳の方法を用いている。それに対して、TT-日では「北堂子」を削除し、「胡同」の漢字をそのまま複写している。異質さを残した翻訳が物語の雰囲気適切に再現できると翻訳者が主張しているのではないかと考えられる。

例5は例4と違い、俳優が話すセリフではなく、スクリーン上の紙に書かれた言葉(図10)である。オリジナル版には中国語字幕が付いておらず、対応しているTT-英がないため「訳されない」に分類できるだろう。それに対してTT-日ではSTをそのまま「胡同」と複写し、画面に映っている視覚情報を字幕で表しているのである。

4.2.2 一般的な表現

4.2.1では、人名、地名・場所名の固有名詞の翻訳について検討した。本節では一般的な表現の翻訳方法を分析する。具体的に呼称表現、京劇用語、慣用語・ことわざ、四字熟語、メタ言語表現、社会文化の6領域に分けて考察を進める。

呼称表現

- (6) ST 爷爷 有件事想跟您商量
(お爺さん ちょっと相談したいですが)
TT-日 先生 お話があります
TT-英 Master, I want to discuss something with you.

呼称表現には、例6の話し相手の注意を喚起するために聞き手に対して発する呼びかけがあげられる。劉(2017)によれば、中国語の呼びかけには挨拶機能や、親族ではない人に対して親族呼称を使って敬意を示す機能を持つという特徴がある。例えば、例6は主人公から師匠に対する発話である。師匠に対して敬意を示すため、親族呼称の「お爺さん」を使って師匠に呼びかけているが、TT-日とTT-英ではそれぞれ「先生」とMasterと同化的に訳されている。その場合、TT-日とTT-英はともに帰化の方法に分類できるだろう。

京劇用語

- (7) ST 贵妃醉酒那写的是 (『贵妃醉酒』との演目は)
TT-日 “きひすいしゅ 貴妃醉酒”は
TT-英 Precious Concubine Gets Drunk is about
(8) ST 这旦角往脸上贴片子为什么呀
(京劇の女形はなぜ顔にかつらをつけているのか)
TT-日 女形が髪でほほを隠すのは——
TT-英 Female characters paste locks of hair over their cheeks. Why?

- (9) ST 芝芳 今儿最后一场我得早点去
(芝芳、今日は最終日なので早く行かないといけない)
TT-日 今夜は千秋楽だから 早めに行くよ
TT-英 Tonight's the last show. I should get there early.

例 7 の「貴妃醉酒」は京劇の演目名である。TT-日の場合、ST の漢字をそのまま保留し、複写の翻訳方法を使っている。また、ルビをつけることで読み方も提示しているため、「複写、ルビ、音訳」の翻訳方法を採用している。一方、TT-英では「貴妃醉酒」を *Precious Concubine Gets Drunk* と訳し、演目名を構成している語の意味をそれぞれ訳しているため、借用翻訳・逐語訳に当たる。TT-日では演目名の意味に関する説明が提供されておらず、日本人視聴者には分かりにくいと思われるが、これは ST の異質さを残す意図があるのではないかと考えられる。

例 8 は、京劇役柄の翻訳である。京劇で女性を演じる役柄は「旦角」と呼ばれる。TT-日の場合、「旦角」が歌舞伎用語の「女形」と訳され、帰化の翻訳方法である。TT-英の場合、*Female characters* と語の意味を訳されるので借用翻訳・逐語訳である。

例 9 は、ST では異文化要素ではない表現が TT-日では異文化要素に置き換えられる例である。ST の「最后一场」(公演の最終日) は普通の表現であり、TT-英では *the last show* と訳されている。一方、TT-日では「千秋楽」と訳されている。これは ST では特に異文化要素ではない普通の表現を目標言語の文化要素に訳しているため、創造の翻訳方法に分類できるだろう。

京劇は中国の伝統文化の精華であり、それに関連する用語の異質さが極めて強いため、視聴者にとって理解しがたいものであると思われる。その異質性を緩和するために、TT-日は帰化や創造の翻訳方法を利用し、視聴者にとってより親しみやすい翻訳を目指しているのではないかと考えている。

慣用語・ことわざ

- (10) ST 打个退堂鼓 (京劇を諦めよう)
TT-日 “最後の一礼をして 永遠に舞台から去れ”
TT-英 Take your final bow.
- (11) ST 傍戏子去了不跟你们玩了 (役者に従って歩むよ さよなら)
TT-日 京劇と共に歩む 司法局とは おさらばだ
TT-英 I'm with the opera now. I'm done with all this!

例 10 は、慣用語「打退堂鼓」の翻訳である。「退堂鼓」は「退庁の太鼓」であり、昔の役所では退庁の合図に太鼓を叩いていたのである。現在は「諦める」というネガティブな意味合いを表す。これは、京劇を諦めようと叔父さんが主人公に言うシーンである。TT-英では「退堂鼓」に対応する言葉がないため ST の表現を削除したが、ST の意味を TT に導入するために *take your final bow* との新しい表現を作ったから、削除と創造の翻訳方法

を重ねて利用している。TT-日では、同じように削除と創造の翻訳方法を用い、「最後の一礼をして 永遠に舞台から去れ」との言葉を創造した。

例 11 は、「傍戏子」という慣用語の翻訳である。「戏子」はむかしの役者に対する蔑称であり、「傍戏子」は役者に従うことを指す貶し言葉である。登場人物の邱如白が、公務員の仕事をやめて京劇役者である主人公の仲間になると決意したときに、自嘲気味に言った言葉である。TT-英では ST の表現を削除し、I'm with the opera now という新しい表現を創造したため、削除と創造の翻訳方法を採用していると言えるだろう。TT-日では「京劇と共に歩む」に訳されたことで、TT-英を参照して作成されたのではないかと推測される。また、例 10 と例 11 から、TT に訳される際に ST に含まれるネガティブな意味合いが取り除かれたことが分かった。

四字熟語

- (12) ST 我心说 爷爷怎么那么出神入化啊 (先生の演技は神技に近い)
 TT-日 先生の演技は完璧の極みです
 TT-英 Your performance was absolute perfection.

中国語では四文字からなっている言葉を好む言語習慣があり、話し言葉では四字熟語がよく使われている。これらの言葉は TT では対応する言葉がほとんど存在しないため、四文字の形を他の言語に移植することが困難であるが、絶対一般化などの目標志向の翻訳方法で ST の意味を再現することが見られる。例 12 の「出神入化」は、師匠の技のすばらしさを形容する言葉であり、TT-日では「完璧の極み」、TT-英では absolute perfection と訳され、ともに絶対一般化の方法が採用されている。

メタ言語表現

(13)

	ST	TT-日	TT-英
①	孟: <u>梅大爷</u> 我送您进去吧 (<u>おじさん</u> 送ります)	<u>梅大先生</u> 送ります	<u>Venerable Master Mei</u> , I'll see you in.
②	梅: 不用了 (いいですよ)	いや 今何と?	Please, no need.
③	梅: 您刚才叫我什么 (今、何と言った)		But what did you just call me?
④	孟: 您不是梅兰芳 <u>梅大爷</u> 吗 (<u>おじさん</u> と)	<u>梅大先生</u> と	Aren't you <u>Venerable Master Mei Lanfang</u> ?
⑤	梅: 是 <u>梅得爷</u> 不是 <u>梅大爷</u> (<u>梅様</u> ですよ。 <u>おじさん</u> ではない)	<u>梅先生</u> で十分ですよ	<u>Master Mei</u> will do.

例13は「梅大爷」と「梅得爷」の発音に関するメタ言語表現の翻訳である。主人公の梅蘭芳はヒロインの孟小冬と初めて出会うとき、孟小冬によって「梅大爷(梅のおじさん)」と呼ばれたシーンである。北京方言では、苗字の後に「得爷(得爺)」を付けると尊称となる。つまり「梅得爷」は尊称で、逐語訳にすると「梅様」となる。孟小冬は上海出身で、この苗字に「得爷(得爺)」を付ける呼び方をよく知らないため、「得(de)」を中国語では発音が似ている「大(da)」と混同し、例13の①のように「梅大爷」と間違えて言った。「梅大爷」のように苗字に「大爷(大爺)」をつける場合、「お父さんの兄弟」、つまり「おじさん」の意味を表す。

例13は、「梅大(da)爷」と「梅得(de)爷」の発音の違いによって言葉遊びのようなユーモアの効果を持っているが、ST言葉の発音と関わる表現であるため、逐語訳にするとTT視聴者が戸惑うだろう。そのためにTT-英とTT-日では補足の方法が採用され、孟小冬の呼び方「梅大爷」がVenerable Master Meiと「梅大先生」、「梅得爷」がMaster Meiと梅先生と訳されている。ここではSTにおける「梅大(da)爷」と「梅得(de)爷」の対応関係を、TT-英とTT-日ではVenerable Master MeiとMaster Mei、「梅大先生」と「梅先生」の新しい対応関係を作り出した。これはSTの意味ではなく、そのユーモア効果を意図した翻訳であると言えるだろう。

メタ言語表現は発音などのSTの言語特徴に関わるので、音と意味の側面でSTを保持することが困難であるだろう。その場合、例13のように新しい表現を作ることが1つの選択肢となれる。

社会文化

- | | |
|---------|---------------------------------------|
| (14) ST | 他抢我糖葫芦(私のタンフールを奪われた) |
| TT-日 | 私のサンザシ飴よ |
| TT-英 | He's eating my <u>toffee apples</u> . |

社会文化の領域には物品、料理、飲食、冠婚葬祭などに関する用語が含まれる。例14は、お菓子「糖葫芦(タンフール)」の字幕である。「糖葫芦(タンフール)」は北京の名物であり、砂糖をまとったサンザシを串に刺したお菓子である。串につながった模様がヒョウタンの形と似ているので、「糖葫芦」つまり「飴のヒョウタン」と呼ばれる。その原材料は「サンザシ」であることから、TT-日では起点文化内のより知られた言葉である「サンザシ」で代用し、限定一般化の翻訳方法に分類できるだろう。TT-英の場合、目標視聴者がなじみやすいtoffee applesに置き換えられたことで、帰化の翻訳方法である。

4.3 分析結果のまとめ

本研究では、中国映画『花の生涯～梅蘭芳～』の日本語字幕に焦点を当て、字幕における異文化要素の翻訳方法を調査し、分析した。

量的分析を通して翻訳方法の分布を明らかにした。分析結果から、TT-日、TT-英ともに固有名詞の翻訳は起点志向、一般的な表現の翻訳は目標志向の翻訳方法が採用されやすいことが分かった。先行研究で人名、場所名・地名などの言語外文化的指示の領域では起点

志向の翻訳が、慣用語、メタ言語などの言語内文化的指示の領域では目標志向の翻訳がよく使われることが明らかになっている(篠原 2013; 貢 2019; 張 2022)。本研究の結果は、先行研究と同じような傾向を示している。

TT・日も TT・英も翻訳方法の 58%が目標志向であるが、本研究で提案した翻訳方法を 4 段階で検討する分析枠組みを利用することで、TT・日と TT・英の差が見られるようになった。TT・日は弱い目標志向と強い目標志向が同じくらいの割合である一方、TT・英は特に弱い目標志向の翻訳方法が使われやすい。

よく採用される翻訳方法については、固有名詞の場合は TT・日では複写、TT・英では音訳である。一般的な表現の場合は TT・日では絶対一般化と削除、TT・英では絶対一般化の方法がよく採用されている。

また、質的分析では字幕の翻訳実態を調査した。TT・日と TT・英の共通点について、固有名詞の形か音を再現する起点志向の翻訳方法が採用されやすいことや、視聴者の理解を促すために歴史人物や京劇などに関する背景知識を補足することがあげられる。目標視聴者が受け入れやすい字幕を作成するために、TT・日と TT・英ではセリフの背景知識に関する情報を提供したり、視聴者の馴染みのある表現に置き換えたりすることで、TT・日と TT・英の翻訳者が努力していることが分かった。

一方、TT・日と TT・英の間に相違点が見られる。TT・日では看板、手紙などの ST にはなかった文字情報を字幕に加えること(例 3、例 5)がある。TT・英は中国語字幕と同時に提供されるため、視聴者に情報を提供する際に中国語字幕から束縛を受けることが観察できた。

V 考察

5.1 字幕翻訳のスコpos

本節では分析結果を踏まえて対象作品における字幕翻訳のスコposを特定してみる。

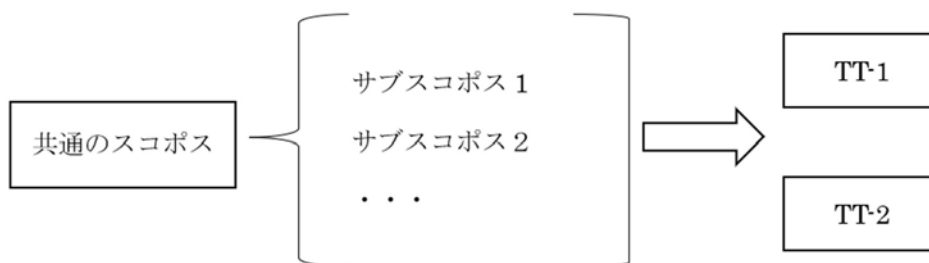


図 11 スコposの多重性

スコpos理論によると、スコposによって異なるタイプの TT が作られる。本研究の調査においては、TT・日と TT・英には相違点がある一方、目標志向の翻訳方法が採用されやす

いという共通点が確認された。このことは、スコポスの「多重性」が存在する可能性を示唆している。

図 11 が示すように、2つの TT には共通のスコポスが存在し、TT-1 と TT-2 によって変わるはそのスコポスに含まれるサブスコポスと考えられる。つまり、共通のスコポスをもとに、サブスコポス 1 とサブスコポス 2 によってそれぞれ TT-1 と TT-2 が生み出された。このスコポスにはサブカテゴリーが存在するという仕組みは、スコポスの「多重性」と呼べるだろう。本研究の場合、TT-1 と TT-2 がそれぞれ TT-日と TT-英に対応している。

まず、共通のスコポスについて説明する。調査結果によって、TT-日と TT-英は同様に目標志向の翻訳方法が多いことが分かった。言語的・文化的な溝を埋めるために視聴者が近づきやすい翻訳方法を採用する傾向がある。このことから、TT-日と TT-英の共通のスコポスは、中国の文化習慣、人間関係、京劇用語などの背景知識を持っていない一般人の視聴者が映像とともに楽しめるようにするとまとめられるだろう。つまり、TT-日も TT-英も映像鑑賞のための字幕を目指している。

TT-日と TT-英の相違点を踏まえ、それぞれのサブスコポスについて説明する。

1) TT-日のサブスコポス

量的分析から分かったように、TT-日は TT-英より目標言語の文化要素に置き換える強い目標志向の翻訳方法を採用しやすい。これは TT-日と TT-英の目標視聴者が異なっていることを裏付けている。つまり、TT-英の視聴者は世界中の英語が読める人と考えられるが、文化背景が特定しにくいと考えられる。しかし、TT-日視聴者の文化背景は把握できるため、ST の異文化要素を日本人視聴者のなじみやすい日本語表現に置き換えることが可能である。

質的分析の結果から、TT-日は視聴者の知識を活用し、受け止めやすさを目指して帰化などの強い目標志向の翻訳を採用していることが分かった。一方で、視聴者の知識ギャップを利用して海外映画としての異質さを狙い、起点志向の翻訳方法も採用している。視聴者が持っている知識と視聴者の知識ギャップを活用する場合をそれぞれ分けて検討する。

日本人視聴者が持っている知識が活用できる場合、近づきやすさを目指して帰化や創造などの強い目標志向の翻訳を採用することが見られる。例えば、例 8 では、京劇用語「旦角」を「女形」と訳している。京劇の役柄名を、日本人の馴染みのある歌舞伎用語に置き換えることで、「旦角」のイメージをより分かりやすくしようと翻訳者が考えたのである。例 9 では、ST では特に異文化要素と考えない普通の表現である「最后一場（公演の最終日）」を、「千秋楽」と訳している。つまり、ST の普通の表現を日本語における異文化要素に置き換えたのである。これは、翻訳者が日本人の言語習慣や視聴者の知識を十分に考慮したうえで、目標言語の文化要素を用いて TT-日で新たに加えた異文化要素と見ることができるだろう。

視聴者が持っていない知識の場合、TT-日ではこの知識ギャップを利用して海外映画としての異質さを狙い、起点志向の翻訳方法を採用することが見られる。人名、地名、京劇の演目名の字幕は起点志向の翻訳がよく使われる。例 7 では、京劇演目“貴妃醉酒”を

きひすいしゅ
“貴妃醉酒”と訳している。漢字を保留しながら、ルビをつけて読み方を提示することで、

複写、音訳、ルビの方法を重ねて用いているが、言葉の意味が解釈されていないため視聴者が戸惑うかもしれない。しかし、演目名にダブルクォーテーションをつけているため、日本人視聴者にとって意味がよく分からなくても構わないが、中国っぽい演目名であると感じられると翻訳者が考えているのだろう。例 4 は北京特有の路地「胡同」の翻訳である。「北堂子胡同七号(北堂子町 7 号だ)」を「胡同七号」と訳していることで、「北堂子」を削除して「胡同」の漢字を複写したのである。しかし、TT-日「胡同 7 号」を中国語に反訳すると「町 7 号」の意味であり、不自然な中国語であるため意味が通じない。このように考えると、「胡同 7 号」は誤訳と見なされる可能性がある。翻訳者は、北京を舞台にした物語にふさわしい雰囲気再現のために、あえてこのような異質さが残る翻訳を採用したのであると考えられる。

さらに、翻訳者が独自に追加した字幕の例が見つかった。

- (15) ST /
 TT-日 1950 年に梅蘭芳が戻ってきた時、6 万人のファンが北京駅に出迎えた
 梅蘭芳は 1961 年に他界 享年 67 歳
 TT-英 /

例 15 は、翻訳者が追加した一般的な表現の例である。TT-日では映画の冒頭には「これは実話である」との字幕を追加し、終わりには例 15 のように「1950 年に梅蘭芳が戻ってきた時、6 万人のファンが北京駅に出迎えた。梅蘭芳は 1961 年に他界 享年 67 歳」という字幕を増やした。スコポス理論によれば、翻訳で求められるのは TT 視聴者との新しいコミュニケーションを成功させることであり、ST の何かの側面を再現する場合だけではなく、翻訳者の意図によって ST には含まれていない要素の追加も認められる。例 15 では翻訳者は伝記映画としての真実性を強調する効果を狙い、歴史人物である主人公に関する情報を実際の背景知識で視聴者に提供しているのだろう。これには、有名な京劇スターの生涯を描いた伝記映画であるというセリングポイントを強調することで、視聴者を惹きつけようとする配給会社のプロモーション戦略が反映されている。例 15 から分かるように、翻訳者がプロモーション戦略を十分に考慮して独自の字幕を追加している。このことにより、まさに翻訳者の主体性が示されている。

以上のことから、TT-日のサブスコポスは次のようにまとめられる。TT-日は、日本人の視聴者に向け、伝記映画としての現実感を伝え、実話をもとにした映画であることを強調していると言えるだろう。

2) TT-英のサブスコポス

TT-英は ST の情報をなるべくそのままを視聴者に提供していると言えるだろう。オリジナルの中国語字幕と同時に提供されるため、可能な限り ST との対応関係を保持しており、ST の要素が独自に追加または削除されることはない。例えば例 3 は、看板に書いてある人名の翻訳である。オリジナル版では看板文字が字幕で提示されなかったため、対応の TT-英もなかった。また、例 11 と例 12 の慣用語の翻訳のように TT-英を参照しながら TT-日を作成したと見られる例もあげられる。これは、TT-英が映画の一部として中国語字幕と

同時に公開され、他言語の字幕制作の参考資料として利用されているためと考えられる。

以上のことから、TT・英のサブスコピスは、国籍と文化背景が特定しにくい英語話者の視聴者に向け、STの情報をなるべくそのままを視聴者に提供していると言えるだろう。

5.2 翻訳方法に影響する要因

以上の考察を踏まえて、字幕における異文化要素の翻訳方法に影響する要因として、言語差、文化差、媒体の物理的制約などがあげられるであろう。

①まずは言語差である。日本語と英語の表記体系、文法などの違いによってTT・日とTT・英は違う翻訳方法を採用している。例えば固有名詞の翻訳について、日本語は中国語と同じように漢字表記を使っていることでTT・日ではSTの形が保留できる一方、ルビを用いて読み方を提示することが可能である。それに対して、TT・英はアルファベット表記しかないのでSTの音が再現できるが、漢字の形の再現が難しい。

②2つ目は文化差である。日中両国の文化圏の距離がより近いいため、冠婚葬祭や京劇に関する表現を日本語に訳する際に、日本文化の近い表現に帰化することがよく見られる。一方、張(2022)は文化圏の距離が近ければ翻訳上の問題が減るかといえばそう単純ではなく、近いが故にかえって文化的要素の処理が難しいこともあると示唆している。例えば対象作品における呼称表現、慣用語などは中国の歴史、伝統文化、人間関係が背景にあるため、そのままをTTに移植することがほぼ不可能である。このような異文化要素を処理するときに、翻訳者による説明や解釈が必要である。また、削除や新しい表現を作り出すという選択肢がある。

③3つ目は媒体の物理的制約である。TT・日のほうがTT・英よりも視覚情報と結びつきやすい。TT・日では、字幕が画面上の人物の動作によって補完されていることや、字幕で言語視覚の情報を説明することが見られる。一方、TT・英は、視覚情報よりも中国語字幕との同期を優先している。中国語字幕とTT・英はバイリンガル字幕として対応関係を持つ必要があるため、TT・英が独自にSTの要素を削除したり、STに表示していない看板などの文字情報を増えたりすることが困難だと考えられるだろう。このことから、TT・英がそれと同時に表示される中国語字幕によって束縛されていることを示唆している。

VI おわりに

本研究では、中国映画の日本語字幕における異文化要素の翻訳方法を調査し、分析を行った。Franco Aixelá(1996)の翻訳方法を調整したうえで、4段階、11種類の翻訳方法を提案した。量的分析と質的分析を通して固有名詞と一般的な表現の翻訳実態を把握し、TTのスコピスと翻訳方法に影響する要因を検討した。本研究の結論は以下のようにまとめられる。

異文化要素の翻訳方法は強い起点志向、弱い起点志向、弱い目標志向、強い目標志向の4段階で分布している。TT・日とTT・英には、娯楽のための字幕翻訳という共通のスコピスがある一方、それぞれのサブスコピスに即して異なるタイプのTTが成立した。視聴覚翻訳の領域においてのスコピス理論の有用性を検証し、スコピスに多重性が存在することが

示唆された。翻訳方法の影響要因について、言語差、文化差、媒体の物理的制約による影響が見て取れる。

字幕付き映像作品の流通が拡大しているなか、字幕における異文化要素への対応は喫緊の課題となっている。日中両言語間の研究はまだ少ないが、本研究では中日英の 3 言語で比較しながら翻訳方法を調査することで、日本語字幕の特徴を客観的に捉えることができた。異文化要素の翻訳は起点志向と目標志向の 2 つの方向性があると先行研究で検証されたが、本研究は Franco Aixelá (1996) の翻訳方法を調整し、新たに 4 段階の分析枠組みを提案することで従来の分類で探り当てられなかった TT の間の差を明らかにすることができた。本研究が提案した分析枠組みは有用であると言えるだろう。量的調査ではコーパス検索ツール CUC_ParaConc を利用して 1 対多の対訳コーパスを作成することで、コーパスのアプローチを試みた。

本研究は個別映像作品のケーススタディにとどまっているため、映像作品全般における異文化要素の翻訳方法を検討したことはならない。また、字幕と映像との相互作用を考慮して検討したが、その相互作用を体系的に分析するには新たな分析枠組みを開発することが必要である。今後の課題としたい。

(神戸大学国際文化学研究科博士後期課程)

注

- 1) 本研究で、目標テキストは TT (=Target text)、起点テキストは ST (=Source text)、目標言語は TL (=Target language)、起点言語は SL (=Source language) と略した。
- 2) 訳語は篠原 (2013) を参照。
- 3) 地名、人名、場所名など。
- 4) 訳語は貢 (2019) を参照。
- 5) 同上。
- 6) 1929 年 9 月号から 1930 年 1 月号にかけてブラック・マスク誌 (Black Mask) に連載され、1930 年に単行本として出版された。
- 7) ①複写、②表記を調整して TL に適応させる、③単に語の意味を訳す方法、④脚注・割注、⑤本文中で補足説明を加える、⑥類義語などで言い換える、⑦限定一般化、⑧絶対一般化、⑨帰化、⑩削除、⑪創造。訳語は藤濤 (2007) を参照。
- 8) 2008 年に日本で、2009 年にアメリカで公開された。第 32 回日本アカデミー賞最優秀作品賞、第 81 回アカデミー賞外国語映画賞などを受賞した。
- 9) 『グランド・マスター』(原題: 一代宗師、英語題: *The Grandmaster*) は、中国の武術家葉問を描いた映画である。2013 年 1 月に中国で、2013 年 5 月に日本で公開された。
- 10) TT 日はオリジナル版にはなかった補足説明や、看板などの視覚モードで現れている言語情報を字幕で追加したので、21 件多い。
- 11) ルビは単独では現れず、「複写、ルビ、音訳」のように同一箇所複数の翻訳方法が用いられる。

参考文献

- Alfaify, A., & Ramos Pinto, S. (2022). Cultural references in films: An audience reception study of subtitling into Arabic. *The Translator*, 28(1), 112-131.
- Baker, M., & Saldanha, G. (2009). *Routledge encyclopedia of translation studies*. (ベーカー, M., & サルダンニャ, G. 藤濤文子 (監訳) 伊原紀子・田辺希久子 (訳) (2013) . 翻訳研究のキーワード 研究社)
- Delabastita, D. (1989). Translation and mass-communication: film and TV translation as evidence of cultural dynamics. *Babel*, 35(4), 193-218.
- Díaz Cintas, J. (2009). Introduction—Audiovisual translation: An overview of its potential. In *New trends in audiovisual translation* (pp. 1-18). Multilingual Matters.
- Díaz Cintas, J., & Remael, A. (2007). *Audiovisual Translation: Subtitling (1st ed.)*. Routledge. <https://doi.org/10.4324/9781315759678>
- Fahim, M., Mazaheri, Z., & Branch, C. T. (2013). A comparative study of translation strategies applied in dealing with culture-specific items of romance novels before and after the Islamic Revolution of Iran. *Journal of Advances in English Language Teaching*, 1(3), 64-75.
- Franco Aixelá, J. (1996). Culture specific items in translation. In R. Alvarez & M.Carmen-Africa Vidal (Eds.), *Translation, power, subversion* (pp. 52-78). Clevedon: Multilingual Matters
- Leppihalme, R. (1997). *Culture bumps: An empirical approach to the translation of allusions* (Vol. 10). Multilingual Matters.
- Pedersen, J. (2011). *Subtitling norms for television: an exploration focussing on extralinguistic cultural references*. John Benjamins Publishing Company.
- Reiss, K., & Vermeer, H. J. (1991). *Grundlegung einer allgemeinen Translationstheorie*. Walter de Gruyter. (ライス, K., & フェアメーア, H. J. 藤濤文子 (監訳) 伊原紀子・田辺希久子 (訳) (2019) . スコポス理論とテキストタイプ別翻訳理論：一般翻訳理論の基礎 晃洋書房)
- 藤濤文子 (2007) 『翻訳行為と異文化間コミュニケーション：機能主義的翻訳理論の諸相』 松籟社
- 貢希真 (2019) 『機能主義による日中間の字幕翻訳についての研究—忠実度を中心に—』 東北大学博士論文
- 貢希真 (2022) 「中国武術用語に関する字幕翻訳の日英対比 —『グランド・マスター』を例に—」『国際文化研究 (オンライン版)』 28, 35-44
- 劉寧 (2017) 『日中両言語における呼称表現についての対照研究』 東北大学博士論文
- 森田秀一 (2023) 『動画配信ビジネス調査報告書 2023』 インプレス総合研究所
- 篠原有子 (2012) 「映画字幕は視聴者の期待にどう応えるか」『通訳翻訳研究』 12, 209-228.
- 篠原有子 (2013) 「映画『おくりびと』の英語字幕における異文化要素 (日本的有標性) の翻訳方略に関する考察」『翻訳研究への招待』 No.9,2013,81-97
- 張顔顔 (2021) 「日本映画の中国語字幕における異文化要素—忠実度とスコポス理論の観点

からー」『翻訳通訳研究への招待』23, 117-138.

林文华(2020)「2010—2019年国内字幕翻译可视化研究与思考」『英语广场』(12),16-19.

张南峰(2004)「艾克西拉的文化专有项翻译策略评介」『中国翻译』25(1), 18-23.

分析テキスト

陈凯歌(2008)《梅兰芳》腾讯视频

陳凱歌(2008)『花の生涯～梅蘭芳～』HULU